

人間社会学部

# 試験問題冊子

(B日程 2月19日)

## 国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄および裏面の記述式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の□内に指示された解答欄にマークまたは記入すること。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の1と15、記述式解答欄のAとJのみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

先祖が汗水たらして切り拓いたデンパタを、なぜ草ぼうぼうにしているのか。あっちもこっちも、なのだ。夏、中国山地の山あいを走ると、むっとする草いきれと共に殺伐とした風景が目飛び込んでくる。むくむくと疑問がわいてくる。悲しい気持ちになってくる。

「耕作放棄地」だ。二〇〇五年の統計によれば、中国地方は、耕作面積全体に対する「耕作放棄地」の割合が広島県全国四位、島根県九位など、全国有数の「耕作放棄地帯」となっている。五割以上が放棄されている、という市町村も目につく。(中略)

もうひとつ気になる数字がある。畜産物に関する数字だ。完全に自給できているのは一六％で、輸入飼料による生産分が四八％となっている。つまり、肉や卵自体は国内産でも、食べているエサが海外からの輸入で、自給できていないということだ。

こうした事情を知るにつれ、また、疑問がむくむくとわいてくる。耕作放棄地で飼料を作ろうという人はいないのだろうか。

またすぐ反論が返ってくる。アメリカなどの海外産飼料に、価格で太刀打ちできないのだ、と。そして、アメリカ中西部の穀倉地帯の雄大な映像を見せられる。広い区画の農地で行われる効率的な農作業、巨大なコンバイン。狭い段々畑や棚田でちまちま手間をかけて農業をやっても、勝てるはずがない。急いで大規模農業を普及させないと、日本の農業にあすはない、と説明される。

これがいわゆる「常識的な課題認識と解決へのアプローチ」だ。しかし、その常識、本当に正しいのだろうか？

日本有数の耕作放棄地帯に属する島根県の山あいでは、私たちは新たな動きを取材した。そして驚いた。「いわゆる常識」のない世界に住む人に次々出会ったのだ。

洲濱<sup>すはま</sup>正明<sup>あき</sup>さん、二九歳。草ぼうぼうの耕作放棄地を借り、牛を放している。二四時間三六五日、牛たちは毎日気ままに草はらを歩き、気の向いた場所で草をはむ。乳が張ると牛舎にやってきて、乳をしばってもらって、また草原に戻っていく。

牛は、穀物を一切食べていない。でも乳は出る。草ばかり食べているからおいしくないかというと、とんでもない。飲んでみると驚くほど濃厚だ。

耕作放棄地はただで貸してもらっている。どうせ使っていないのだから、どうぞ。しかも草刈りの手間まで省けて好都合、というわけだ。

売れる牛乳は、もちろん大量というわけにはいかない。日によって量にもばらつきが出る。しかし、自然そのものの牛乳だと、好んで買う人がいる。自家製アイスクリームも好評だ。

なんととっても、毎日の経費がほとんどゼロ。生活に困らない程度の収入は、十分確保できている。

なにより私たちが惹かれるのは、洲濱さんの穏やかな表情、のんびりした話し方だ。「雑草というところa」なものですが、そのaが、私たちにあってはありがたい牛のエサなんですね」と、静かにほほえみながら話す。そして続ける。「牛のストレスも、少ないようですよ」

確かにそうだ。美しく蘇った耕作放棄地。牛の放たれた草はらは、生い茂っていた草を牛がせっせと食べたおかげで、今やさわやかな風が吹き抜ける放牧地だ。のんびり座ったり、草をはんだり、思い思いに過ごす牛たちは、いかにもストレスがなさそうだ。

私たちは、はたと思う。日頃報道で目にする「苦しい酪農」と、なぜこんなに違うのだろうか。

海外産穀物の高騰<sup>3</sup>によってかさむエサ代。それなのに、市場に出回る牛乳の量が多すぎて、むしろ下がっていく牛乳の買い取り価格。廃業に追い込まれる酪農家が増え、今度はバター不足が起きる。余っているのかと思うと急に足りなくなるという、理解しがたい事態。

もちろん、日本中の酪農家が、洲濱さんのようにするわけにはいかない。それでは日本全体の需要はまかなえないだろう。b、今の酪農が当然のこととしている常識は、疑ってみる必要があると思うのだ。

例えばそのひとつが、「穀物を食べさせないと濃い牛乳は生産できない」ということだ。私たちは取材で目から鱗<sup>4</sup>を落とされた。草だけの牛乳は、確かに濃かったのだ。

洲濱さんはこともなげに言う。

「食べているものの種類が多いんですよ。クマザサからヨモギまで、数百種類くらいは食べてるんじゃないかと思うんです。飼料だと、こうはいきません。混合飼料といっても、植物の種類にすれば数種類にすぎません。c濃厚なんです」

いわれてみれば、なるほど、である。

「牛乳の価格をおさえないと売れない」という常識もあやしい。洲濱さんの牛乳は、市販の五倍もする。でも売れる。それはそうだ。こんなに健康的な環境で育ち、自然そのもののエサを食べた牛の乳は、飲みたくなる。そもそもたくさん出回らないため、高くて買えないと言っていると、なくなってしまう。

価格だけをバロメーターとし、大量に作って単価をおさえ、売れなければ牛乳を捨てて市場のだぶつきをカイヒ<sup>5</sup>するという、なんともいたたまれなくなる経済の常識は、そこにはない。

洲濱さんは、さらに大胆な「常識破り」を始めている。自然放牧では避けられない「毎日牛乳の味が変わること」を強みにしようというのだ。

常識的な農家が、かんかんになって怒りそうな試みだ。なぜなら、多くの農家は、品質が一定であることを市場での競争力と信じ、その達成のために、努力に努力を重ねているからだ。でも、市場、というか我々消費者は、本当にそんなことを求めているのだろうか。

「常識」が想定する、品質のばらつきに対する市場の反応。それは「きのうと同じ値段がついているのに、きょうの牛乳は薄かった。損をした。どうしてくれるのか」であろう。だが、自然放牧の牛乳にそのような文句を言う人がいるだろうか。

洲濱さんの取り組みを聞き、「日によって違う牛乳の味を楽しんでください」と言わ

れて牛乳を飲み比べた藻谷さんは、ひとことでその「常識破りの価値」を言い当てた。

「搾った日ビンテージ、ですね」

そうなのだ。私たちは「均質なものをたくさん」以外の価値観も持ち合わせている。ワインなどの世界では、他にない特徴を持つものが少量であることに価値を置く。「ビンテージもの」と名付けて。その価値観を牛乳に持ち込もうとは、夢にも思っただけで来なかった。それだけのことなのだ。

常識にとられない洲濱さんは、毎日味が違う牛乳を、これからもっと売り出していきたいという。晴れた日、草原を突っ切り、森に入ってクマザサをおなかいっぱい食べる牛の乳。草はらにハーブがはえる季節、ほのかにいい香りのする牛乳。

確かに、その方が自然放牧ならではの「ストーリー」を語ることができる。聞いているだけで、わくわくしてくる。そして、牛乳は工業製品ではないのだ、と改めて実感できる。

これこそ、「均質」にできることが当たり前となり、逆にばらついていることの価値、つまり **d** を大切にしたくなった今の時代だからこそ認められる「常識破り」ではないか。

（藻谷浩介・NHK広島取材班 『里山資本主義』）

問1 傍線部1、2、3、4の漢字のよみをひらがなで、傍線部5のカタカナを漢字に直して、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1  2  3  4  5

問2 傍線部ア「いわゆる常識」に当てはまらない本文中の例として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 農業の大規模化により生産性、自給率を高めること
- ② 流通させる商品としての牛乳の品質は一定であること
- ③ 無償で借用できる耕作放棄地を畜産に再活用すること
- ④ 草を飼料とする牛の乳は商品価値が落ちること

問3 空欄  に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 無駄
- ② 有用
- ③ 希少
- ④ 豊富

問4 空欄 、 に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① b だから c だが
- ② b だが c だから
- ③ b だから c しかも
- ④ b だが c しかも

問5 傍線部イ「いたたまれなくなる」理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 努力に努力を重ねて生産しても、消費者はそれを理解してくれないから。
- ② 健康的な環境でストレスなく牛を育てたいのに、大量に牛乳を生産しなければならぬから。
- ③ 常識的な農家が、かんかんになって怒りそうな試みだから。
- ④ 価格を安定させるために、大量に生産し、また逆に廃棄しなければならないことがあるから。

問6 傍線部ウ「それだけのことなのだ」に込められた筆者の思いとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

5

- ① 私たちはビンテージという価値観を軽視してきた
- ② 私たちはビンテージという価値観を看過してきた
- ③ 私たちはビンテージという価値観を重視してきた
- ④ 私たちはビンテージという価値観を否定してきた

問7 傍線部エ「工業製品」で筆者が表現したかった特徴として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

6

- ① 均質
- ② 市場
- ③ 芳醇
- ④ 常識

問8 空欄 d に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

7

- ① 理性
- ② 弾性
- ③ 個性
- ④ 人間性

問9 筆者の主張に最も合致するものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

8

- ① 我が国の食料自給率を上げるため、酪農においても効率化と経営規模の拡大を推し進めて無駄と手間を省き、競争力のある牛乳を生産する必要がある。
- ② 消費者に好まれ売れる牛乳を生産するためには、現行の酪農が依拠している輸入飼料による酪農という常識を疑ってかかることが重要である。
- ③ 必ずしも消費者が望んでいるわけではない規格化等の常識にとらわれずに、いまある国土資源を活用し、牛乳などの食料生産に取り組むことが重要である。
- ④ 食料自給率を上げるとともに、耕作放棄地の解消のために、輸入飼料ではなく自然放牧によって、牛乳に対する国民全体の需要を満たすことが大切である。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

デザイナーやエンジニアは、自分はモノをつくり、サービスを提供していると考える。しかし厳密には、そのモノだけとインタラクトしているわけではない。文房具は、「書く」ことに対して鉛筆、ノート、下敷き、消しゴムを組み合わせ、快適な執筆や編集活動を實現している。モノとしてはそれぞれ個別であっても、いざ実際に「人が書くこと」を開始すると、「鉛筆とノートと下敷きが一齐にサービスを開始してユーザーの活動を支えている」と考えることができる。たとえば書き味の良いペンを買ったとしても、紙の品質が良くなければそのペンの書き味の良さは低下してしまう。性能の良いマウスを買っても、マウスを使う机の面やマウスパッドが良くなければその性能はハッキリされない。生態心理学では、人間の能力は環境をうまく使って實現されるという考え方をするが、身近なところでも、道具の性能という点で「二つでひとつ」の性能が實現されるということがわかる。

さらに広げて考えれば、机や椅子、床や部屋も一齐に同時にサービスを展開している。したがってモノを設計する際、こういったさまざまな同時性の中の性能や性質を考慮することが重要である。これは一種の「コンテキスト」とも捉えることができるが、ここではもう少し知覚や行為を成立させる現象的な側面である。コンテキストといえば、たとえば電車の中や家の中といった明確な場所や状況などの、人間自身も理解したり察したりできるようなものをイメージするかもしれないが、ここでのコンテキストとは普段人間は言語化したりしないレベルのものだ。

そしてここで重要なことは、一齐にサービスを開始している「同時性」である。人間のほとんどの活動は、こうしたさまざまな同時的な環境の性質（地面、空気、椅子、机）や、人間の身体の性質（呼吸、発話、見えること、聞こえること）によって支えられている。しかし、こういった同時性は、「同時に起こること」であり、なかなか言語化したり記述することが難しい。なぜなら言語が一次元であり、同時に起こることは同時に表現できないためだ。感覚的にはわかっていても、「地面に足がついている」「椅子の背もたれに背中がついている」という具合に個別の言い方になってしまう。

こういった考え方を前提にすれば、自分たちが提供しているサービスは人の生活のごく一部にすぎないということがわかる。製品やサービスはさまざまな環境の中の同時に起こる現象の中で成り立っているのだ。だからユーザーはとんでもないサポート範囲外の使い方もするし、新しい使い方やその価値を広げるアイデアを生み出すこともする。デザインを定義するためには、こうした、既にある環境の中の同時性をうまく活かしていくことがポイントになるだろう。

このような環境の同時性を考えていくと、実は「モノ」という考え方が良くないことに気づく。インタラクションという視点で設計するものづくりは、「モノ」の定義を変えたほうが都合が良い。なぜなら、人間は行為する存在であり、時間軸があるためだ。たとえばカップを名詞として一言で説明してしまうと、カップの構成要素、形、色、質量かもしれないが、人間はそれを使うとき、行為によって関わる。カップが持つ行為の属性は、わかりやすいレベルでは「掴む」<sup>3</sup>「飲む」<sup>3</sup>ことだったりする。しかし人がそれを掴む以前から、人と同じ空間に存在し、行為の可能性を備えている。その状態におけ

るカップを説明するにはどうしたらいいのか。

筆者はこれを、「カップのa」と呼ぶ。これによって、初めてモノが人の行為と対等に関わる発想になる。人は知覚し行為する存在であり、時間軸がある。だからモノ側にも時間軸がないと、人間に対するものづくりができない。私たちはカップという持続的な情報を知覚し行為する。カップという名詞はアイコン的、記号的であり、行為の設計には向いていない表現方法なのだ。私たちは物質と情報は明確に異なるものであると考えているが、体験にとつては物質であるか情報であるかは実は<sup>4</sup>チメイテキには関係していないのではないだろうか。

体験にとつて物質と情報の違いは、その持続性のあり方だ。つまり情報であつたとしても比較的長く持続し、人が知覚行為において利用可能(定位可能)であれば、それは体験として大きな意味を持ち、物質であるかは問題ではない。実際私たちが生きるこの世界は、物質でないものに対して名前がつけられ、私たちの知覚行為に利用されている。たとえば、地平線は物質ではなく情報でしかないし、空もまた物質ではない。しかし私たちはそれを仮想的な存在であるとは考えない。

今、私たちのまわりにある壁や天井は、突然消えたりせず、私たちが生きる空間よりも長くこの環境に存在する持続性があるためにリアリティを持つ。「リアリティ」という言葉は、コンピュータのスクリーン上にいかに本物と同じような見た目の質感をもたらすかを言うことが多いが、持続性に関するリアリティを忘れてはいけない。おそらくリアリティの非常に重要な要素に「持続性」があり、持続性がないことが行為の可能性へも影響し、さらにその点においてもリアリティが低下する。b、ディスプレイ上でビットとしての情報提示であつても、持続性による行為の可能性を与えることで、リアリティは確保できるはずだ。

少しまとめると、ものづくり、その「物」という言い方が体験にとつては適切ではなく、持続で捉えるべきだということだ。そしてリアリティは物質性ではなく持続性であるということだ。数百年「物」という状態を当たり前のこととして設計してきたわけだが、ハード、ソフト、ネットを目の前に、まず「物」の定義にメスを入れるべき時ではないだろうか。

少し余談だが、「持続」に関して個人的にキオクに残ったキャッチコピーがある。<sup>5</sup>2004年前後だっただろうか。シャープの液晶テレビのCMで、「いいデザインはかたちでしょうか。いい時間だと思いませんか?」というものがあつた。これはハツとするコピーだつた。デザインの物質性より体験性を物語る表現。そして体験は時間であると言っている。しかもモノを「持続」と言い換えるより一般的でわかりやすい。ここでの「時間」は、何時とか何分間とかいう話ではなく、かたちを否定することで持続という点での時間の性質を言っている。「デザインは時間である」と。素晴らしいコピーだと思つた。その頃、メッセージの目的は違うとしても、「c」というCMコピーもあつたが、これも体験が重要であるというメッセージかもしれないが、これではモノを否定してしまふ。体験をメッセージにしようとする、つい「モノからコトへ」という発想になり、モノの重要性をうっかり下げてしまひそうになる。しかし重要なことは、モノを体験として捉えることであり、モノをなくすことではないということだ。

問1 傍線部1、4、5のカタカナを漢字に、傍線部2、3の漢字をひらがなに直して、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1  2  3  4  5

問2 傍線部ア「こういったさまざまな同時性の中での性能や性質を考えることが重要である」理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① モノは他のモノと一対となって初めて性能が実現される場合があるから。
- ② 製品やサービスはさまざまな環境の中の同時に起こる現象の中で成り立っているから。
- ③ モノをつくる際に、そのコンテキストは感覚的になりがちであり、言語化するの  
は不可能であるから。
- ④ モノはユーザーによって想定外の使用法や新たな価値が生み出されるから。

問3 傍線部イ「実は「モノ」という考え方が良くないことに気づく」とあるが、ここで言う「モノ」とは何か。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 時間軸をもつモノ
- ② 行為の可能性を備えているモノ
- ③ アイコン的、記号的なモノ
- ④ 持続的な情報であるモノ

問4 空欄  に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ  
選びなさい。

- ① 現象
- ② 同時性
- ③ 体験性
- ④ 持続

問5 傍線部ウ「リアリティ」を確保するために必要なものとして最も適当なものを、  
次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 体験にとつて物質と情報の違いは関係ないと知ること
- ② 仮想的な存在に本物と同じような質感をもたらすこと
- ③ 名前をつけることによって知覚できるようにすること
- ④ 持続性があることによって行為の可能性を与えること

問6 空欄  に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ  
選びなさい。

- ① したがって
- ② ただし
- ③ しかも
- ④ むしろ

問7 空欄 c に当てはまる語句として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

14

- ① デザインより体験
- ② 物よりデザイン
- ③ デザインより思い出
- ④ 物より思い出

問8 本文の趣旨に最も合致するものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

15

- ① デザイナーやエンジニアは、新たにモノを設計する際に、環境の性質や人間の身体の性質といった同時性に留意すべきである。
- ② デザインする際には、製品やサービスは様々な環境の中で同時に起こる現象の中で成り立っていることを理解した上で、その同時性を活用すべきである。
- ③ デザイナーやエンジニアは、従来のモノに対する物質性の観点だけでなく、モノに対する持続性の観点を持つべきである。
- ④ これからのものづくりには、モノの物質性ではなく持続性を重視したデザインが必要である。

(以上)